車載ディスプレー市場、22 年に７０００億円へ

富士経済は、車載ディスプレー市場の予測を発表した。２０１８年の市場は前年比 12%増の４８０８億円が見込まれ､22 年には 17 年比 68%増の７１８４億円に拡大する見込み。また、曲面や異形のディスプレーが増加していくことも予想した。

液晶は、日本でのカーナビ、欧米でのオーディオなどへの搭載率の高さや、中国市場でのカーナビやオーディオなどの普及によって拡大しており、18 年は４５８９億円が見込まれる。市場の 95%以上を平面・四角形状のディスプレーが占める見通しだ。

大手ディスプレーメーカーは、自動車メーカーとの直接取引や高機能・高付加価値品の展開でシェアを維持している。一方、中国メーカーが安価な小型ディスプレー製品の拡販を進めており、急激にシェアを拡大させている。液晶はコストダウン要求が強いため、今後は緩やかな拡大が予想されるが、ADAS の普及に伴い、運転情報などの表示機器として CID（Center Information Display）など比較的大型のディスプレーの需要が増加するとみられ、22 年の市場は５９２５億円と予測した。

曲面ディスプレーは CID、異形ディスプレーはメーターを主用途として、12～15 インチの大画面に採用されると予想した。

曲面ディスプレーは、液晶や有機ＥＬの基板を加工し湾曲させたもの。17 年の市場は僅少だったが、18 年には 12 インチ以上の大型ディスプレーがデザイン性を向上するため高級車に採用され、急拡大する見込み。ダッシュボードは曲面デザインが多いため、CID での採用を中心に、高級車向けやデザイン性を重視するＥＶベンチャー向けに需要が期待される。20 年前後に新たなメーカーの本格参入も予想され、22 年には６００億円まで拡大すると予測した。

異形ディスプレーは、一般的には四角形であるディスプレーを波型や円、穴あけなど自由な形状にし、デザイン性を大幅に高めたもの。欧州自動車メーカーが展開する高級車のメーターに採用されており、需要が形成されつつある。17 年に新たなメーカーが参入し、20 年以降に発売されるモデルでの採用に向けて受注競争が本格化しつつある。これでコストダウンも進むものとみられ、現状の高級車に限られた需要から、ミドルクラス車種にも需要の裾野が広がることが期待される。

この結果、曲面や異形のディスプレーが増加し、22 年には平面・四角形状ディスプレーの比率は 84%に下落する見通しだ。

供稿　《电子元件产业新闻》
翻译编辑 JST 客观日本编辑部